

# ランビル熱帯林研究の 20年

圧倒的な生物多様性を誇るボルネオ島の熱帯雨林。その複雑な生態系の仕組みを解き明かそうと、ランビル国立公園では、1992年から日本人研究者が調査を行って来ました。このシンポジウムでは、20年間で何が明らかになったのか、これからどのような研究が必要なのか、いろいろな分野の研究者が議論します。

日時

2012年12月8日(土)  
13:00～16:45

会場

京都大学  
稲盛財団記念館大会議室



## PROGRAM

13:00-13:10 開会のあいさつ  
永益 英敏 (京都大学総合博物館)

ランビルの一斉開花研究  
酒井 章子 (総合地球環境学研究所)

基調講演  
13:10-13:50 ランビル熱帯林研究 20 年史  
中静 透 (東北大学大学院・生命科学研究所)

林冠の昆虫研究 20 年  
市岡 孝朗 (京都大学大学院・地球環境学学)  
(休憩 15 分)

13:50-14:30 水循環を介したボルネオ島の熱帯雨林と気候の相互作用  
安成 哲三 (名古屋大学・地球水循環研究センター)

16:00-16:40 セッション 2

熱帯樹木の生理生態 — 熱帯環境への適応戦略を探る —  
市栄 智明 (高知大学・農学部)

14:45-15:45 セッション 1

大面積調査区を使ったランビル熱帯雨林の構造・動態研究  
伊東 明 (大阪市立大学大学院・理学研究科)

ランビルにおける気象・水文・水質研究のこれまでとこれから  
蔵治 光一郎 (東京大学・大学院農学生命科学研究科)

16:40-16:45 閉会のあいさつ

共催

サラワク熱帯林研究コンソーシアム  
京都大学総合博物館  
総合地球環境学研究所プロジェクト  
「人間活動下の生態系ネットワークの再生と崩壊」

お問い合わせ先

総合地球環境学研究所 酒井 章子  
〒603-8047 京都市北区上賀茂本山 457 番地 4  
Tel: 075-707-2302 Fax: 075-707-2507  
E-mail: shokosakai@chikyu.ac.jp